

それぞれの毎日

一般への限りない嫌悪が蟠る
ファッションに、誇張された安逸に
受け取ることを拒む人の群れが
漠然と何かを求める瞳を
殊更に自作の虚像へと固定しようとする

遠景を掌の上に乗せ
意識の消えた感情は
希薄な時の流れに微笑する
聞こえていても聞いていない
そんなにも様々な咳きとともに

全てを明確な形状にしよう

うずたか
堆く積まれた思想の山と

強圧的な希望に取り巻かれ
諦観の故に享楽にすがりつく
選択の苦痛に耐えきれず

喜びを華やかに飾るものもなく
哀しみに襲いかかるものもなく
笑顔はただ穏やかに暖かく
哀しみはあだいく筋かの涙
全てはそっと肩を抱くほどに

運命の決定に対する憧れと怖れ
棄て難い自由と、それとはうらはらの嫌悪
浮遊に似た耐え難い毎日
生活を塗り潰す虚栄の数々
とどのつまりは倦怠と疲労

ひたひたと満ちてくる潮^{うしお}を迎える如く
射し込んでくる陽光を浴び
日々の暮らしと抒情とが
見分けられぬほどに溶け合ってゆく
そっと寄り添い合うように

*

それぞれの暮らしが
それぞれの毎日が
流れてゆく
そして、流されてゆく

(1985.8.28)